

# 佛教大学福祉教育開発センター事業 地域フィールドワーク 小野郷へいこう！

活動場所：北区 活動開始：平成20年4月～

小野郷へいこう  
(佛教大学)



小野郷学区社会福祉協議会  
小野郷地域まちづくり推進委員会

## ■ 地域が抱えていた課題

小野郷地域は少子高齢化に伴い、小野郷小・中学校も休校となり、地域の活力が低下していた。またひとり暮らし高齢者の増加により、閉じこもりや地域交流の機会減少への対策など、高齢者の方への生活支援も課題となっている。

## ■ 取組（連携）のきっかけ

北区役所から大学に「安心・安全なまちづくり」への支援依頼があり、平成19年10月に自治会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政等の協働により、「小野郷プロジェクトチーム会議」を開催し、地域福祉のまちづくりに関する取組を進めている。

## ■ 具体的な連携の取組

小野郷地域まちづくり推進委員会を中心に、地域包括支援センター、北区社会福祉協議会、介護予防推進センター、北山いこいの里、大学等が協働し、多様な取組を展開している。これまでの取組の概要は以下のとおり。

休耕田プロジェクト（～平成22年度）、イモ植え・収穫から鷹陵祭への出店（～平成27年度）、岩戸落葉神社ライトアップへの参加（平成21年度～）、井戸端サロン（平成23年度～）、配食活動（平成23年度～）、地区運動会への参加（平成25年度～）

## ■ 今後の活動

まず、現在取り組んでいるひとり暮らし高齢者の方への生活支援（井戸端サロン・配食活動等）を継続的に展開し、これからの小野郷地域のあり方について、住民が中心に進めていけるようサポートしていく。具体的には、住民の想いや声を聞くことでニーズを把握し、そこで暮らす住民の生活を守る活動に取り組んでいきたいと考えている。

## ■ 成果

### ①大学・学生の視点

- 学生自身が暮らしている地域との違い（魅力・課題）を知ることができた。
- 高齢者との関わりを通じて、当事者の方の生活課題について理解を深めることができた。
- 学生がプログラムを企画・実施することで、自ら考え、団体で行動・実行する能力が身についた。
- 地域福祉に関する視点や展開する際の面白さと難しさを学ぶことができた。
- 大学としては、地域と大学・学生が協働して展開する機会を得ることができた。

### ②地域の視点

- 様々な団体・機関が小野郷のあり方について考えられるつながりができた。
- 小野郷に学生が関わることで地域が活気づいた。
- 学生がプログラムを企画・実施することで、地域住民の方々にとって楽しいイベントや機会になった。
- 協議の場を設けることにより、新たな課題やニーズの掘り起こし等が行いやすくなった。
- 長年の活動を通じて関係性が構築され、小野郷に住んでいない学生が地域をサポートする一員となった。

## 活動写真



いいとこマップづくり



これからの小野郷を考えるつどい



井戸端サロン



イモ植え



地区運動会



配食活動

